二学年　古典B　課題　　二年（　）組（　）番（　　）

【評価の観点】　一　二　は知識・理解と読む力
三　は知識・理解を問います

一　次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。　（問6のみ各1点　他各2点）

いづれの御時にか、女御、更衣（1）あまた候ひ給ひける中に、いとやむごとなき（2）際には
あらぬが、すぐれてa時めき給ふありけり。はじめより（3）我はと思ひあがり給へる御方々、
bめざましきものにおとしめそねみ給ふ。同じほど、それより①下臈の更衣たちは、（4）まして
安からず。朝夕の宮仕へにつけても、人の心をのみ動かし、（5）恨みを負ふ積もりにやありけむ、
いとcあつしくなりゆき、もの心細げに里がちなるを、（6）いよいよ飽かずあはれなるものに思
ほして、人のそしりをも（7）え憚らせ給はず、世の例にもなりぬべき御もてなしなり。
②上達部、上人などもあいなく目をそばめつつ、いとdまばゆき人の御覚えなり。③唐土にも、
（8）かかることの起こりにこそ、世も乱れ悪しかりけれと、やうやう、天の下にも、eあぢきな
う人のもて悩みぐさになりて、楊貴妃の④例も引き出でつべくなりゆくに、いとfはしたなきこと
多かれど、かたじけなき御心ばへのたぐひなきを頼みにて、交じらひ（9）給ふ。
前の世にも御契りや深かりけむ、世になくg清らなる玉の男御子さへ生まれ給ひぬ。いつしか
とh心もとながらせ給ひて、急ぎ（10）参らせて御覧ずるに、めづらかなる児の御⑤容貌なり。
一の皇子は、右大臣の女御の御腹にて、寄せ重く、疑ひなきまうけの君と、世にもてかしづき
（1）聞こゆれど、⑥この御にほひには⑦並び給ふべくもあらざりければ、⑧おほかたのやむご
となき御思ひにて、この君をば、⑨私物に思ほしかしづき給ふこと限りなし。

問１　傍線部①～⑤の単語の読みを、ひらがな現代仮名遣いで答えなさい。

問２　傍線部（１）「あまた候ひ給ひける」を敬語に注意しながら現代語訳しなさい。

問３　傍線部（２）「際」と同じ内容を指す語を本文中から二字で抜き出しなさい。

問４　傍線部（３）「我は」とはどういうことか。その後に続くと思われる言葉を次の空欄を埋めるようにして答えなさい。（Ａは漢字一字、Ｂは漢字二字）

我は（Ａ）に（Ｂ）される

問５　囲み部ｉ～ⅲの「ぬ」の意味と活用形を次の選択肢からそれぞれ選び記号で答えなさい。

［意味］　ア・完了　イ・強意　ウ・並列　エ・打消

［活用形］ア・未然形　イ・連用形　ウ・終止形　エ・連体形　オ・已然形　カ・命令形

問６　傍線部ａ～ｈの単語の文中での意味をそれぞれ選択肢から選び記号で答えなさい。（同じ記号は使わない）

ア・寵愛される　イ・妬む　ウ・心躍る　エ・気まずい　オ・いじわるする

カ・気に食わない　キ・嫌う　ク・緊張する　ケ・すばらしい　コ・かわいがる

サ・具合が悪く　シ・待ち遠しい　ス・どうしようもない　セ・厚かましく

ソ・恨みがましく　タ・美しい　チ・不愛想に　ツ・恥ずかしく　テ・きまりが悪い

ト・はっと気が付く　ナ・見ていられない

問７　傍線部（４）「まして安からず」とあるが、誰と比較して「まして」なのか。その比較対象を表す語を次の選択肢から選び記号で答えなさい。

ア・下臈　イ・帝　ウ・思ひあがり給へる御方々　エ・すぐれて時めき給ふ

問８　傍線部（５）「恨みを負ふ積もりにやありけむ」を現代語訳しなさい。

問９　傍線部（６）「いよいよ飽かずあはれなるものに思ほして」の主語を問７の選択肢から選び記号で答えなさい。

問10　傍線部（7）「え憚らせ給はず」を、主語を補って現代語訳しなさい。

問11　傍線部（8）「かかること」の内容を文中から十五字で探し、はじめの五字を抜き出して答えなさい。

問12　傍線部（9）「給ふ」（10）「参ら」（11）「聞こゆれ」についてそれぞれ後の問いに答えなさい

①敬語の種類を次の選択肢から選び記号で答えなさい。

ア・尊敬語　イ・謙譲語　ウ・丁寧語

②敬意の対象（誰への敬意）を次の選択肢から選び記号で答えなさい。

ア・帝　イ・桐壺の更衣　ウ・女御　エ・作者　オ・玉の男御子　カ・一の皇子

問13　囲み部⑥～⑩は誰に対することか。A一の皇子　B玉の男御子のどちらか選びなさい。

A　一の皇子　　B　玉の男御子

問14　出典「源氏物語」について、次のカッコにあてはまる言葉を、漢字で答えるべきものは漢字で答えなさい。

源氏物語は平安時代に書かれた作品で、作者は（①）である。全部で（②）の章段に分かれ、第一章の題は「桐壺」、最後の章題は「夢浮橋」となっている。「匂宮」からの最後の十帖は「③」と呼ばれている。

二 次の漢文を読んで、後の問いに答えなさい。（送り仮名は一部省略してある。）

※本文中の「・」は教科書の漢字を参考にしなさい。（問1～4は各1点　問5～11は各2点）

項王軍壁二垓下一。兵少食尽。漢軍及諸侯兵、①囲レ之数重。夜聞二漢軍四面皆楚歌一、項王乃大(a)驚曰、「漢皆已(b)得レ楚乎。②是何楚人之多也」。③項王則夜起飲二帳中一。有二美人一、名虞。常幸従。駿馬、名騅。常騎レ之。④於(c)レ是項王乃 A ・慨、自為レ詩曰、

力抜レ山兮気蓋レ世
時不レ利兮騅不レ逝
⑤騅不レ逝兮可二奈何一
虞兮虞兮奈レ若何

歌(d)数・美人和レ之。項王泣数行下。左右皆泣、⑥莫二能仰視一。

問1　二重線部(a)「乃」、(b)「已」、(c)「於レ是」、(d)「数」の読みを、送り仮名も含めそれぞれひらがな（現代仮名遣い）で答えなさい。

問2　右の漢文の①出典、②作者名をそれぞれ漢字で正しく答えなさい。

問3　傍線部②「是何楚人之多也。」、⑤「騅不レ逝兮可二奈何一」に使われている句法をそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。

ア　使役　　イ　受身　　ウ　疑問・反語　　エ　感嘆

問4　この話から生まれた（1）「故事成語」、（2）「その意味」を簡潔に答えなさい。

問5　傍線部①「囲レ之」の「之」が示すものを本文中から抜き出しなさい。（訓点不要）

問6　傍線部②「是何楚人之多也」について

（1）ひらがな（現代仮名遣い）のみの書き下し文に改めなさい。

（2）この箇所から項羽の驚きと落胆がうかがえるが、それはどのようなことから起こる心情か。次から選び、記号で答えなさい。

ア　沛公の率いる漢軍が大勢で攻めてきたこと。

イ　信頼していた楚人に裏切られてしまったこと。

ウ　懐かしい多数の楚人と今は会話もできないこと。

エ　楚人は大勢いるのに全く役に立たないこと。

問7　傍線部③「項王則夜起飲二帳中一。」とあるが、これは何をするためか。次から選び、記号で答えなさい。

ア　突破口を探る偵察部隊を出陣させるため。

イ　沛公や楚人と和睦を結ぶ会合を開くため。

ウ　危機の迫った陣中での緊張感を解くため。

エ　虞美人や側近を交えて決別の宴を催すため。

問8　傍線部④「常騎レ之」の主語を本文中から抜き出して答えなさい。

問9　［A］に入れるのに適当な語句を漢字二字で答えよ。

問10　本文中の詩について

（1）詩の内容として適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　大切な愛人の最期を前にした断ちがたい未練

イ　絶望によって今までの自信がゆらぎ乱れた困惑

ウ　力はあるのに時運に恵まれないことへの嘆き

エ　自らの運命を知りそれを受け入れた安らかな境地

（2）傍線部⑤「騅不レ逝兮可二奈何一」を書き下し文に改めよ。

（3）この詩からできた「力も気力も抜きんでていること」を意味する四字熟語を答えなさい。

問11　傍線部⑥「莫二能仰視一」を口語訳しなさい。

三　古典単語問題

［1］次の傍線部の現代語訳としてもっとも適当なものを選び記号で答えなさい。

1（希望の官位を）得たるはいとよし。得ずなりぬるこそいとあはれなれ。
　ア 気がかりだ　イ 気の毒だ　ウ きまりが悪い　エ きちんとしている

2 少将起きて、小舎人童を走らせて、すなはち、車にて、まめなる物、さまざまに持て来たり。
　ア 無駄な　イ 小さい　ウ 高価な　エ 実用的な

3 すずろに（酒を）飲ませつれば、うるはしき人も、たちまちに狂人となりてをこがましく、
　ア 急いで　イ たくさん　ウ 順番に　エ むやみやたらに

4 わづかに二つの矢、師の前にて一つをおろかにせんと思はんや。
　ア おろそかにしよう　イ ばかにしよう　ウ 大事にしよう　エ 大げさにしよう

5 かぐや姫のかたち、いうにおはすなり。
　ア 上品で美しく　イ 幼くてかわいらしく
　ウ 気の毒でかわいそうで　エ 端正に整って

6 あからさまに物へ行くとても、人に、「この雀見よ。物食はせよ」など言ひ置きければ、
　ア ひそかに　イ 大げさに　ウ ほんのちょっと　エ 露骨に

7（尼君は）四十余ばかりにて、いと白うあてに、痩せたれど、つらつきふくらかに、
　ア 頼りになって　イ 上品で　ウ 派手で　エ 病弱で

8 いかに殿ばら、殊勝のことは御覧じとがめずや。むげなり。
　ア まったくひどい　イ もったいない　ウ 無駄だ　エ 格別だ

9（壊れた水車を）とかく直しけれども、つひにまはらで、いたづらに立てりけり。
　ア 無駄に　イ 不自然に　ウ 立派に　エ おどろくほど

10（その日は）雨いたう降りて、つれづれなりとて、（帝は）殿上人、上の御局に召して、御遊びあり。
　ア 思いがけない　イ 退屈だ　ウ 冷淡だ　エ みんな一緒だ